

# 保育闘争委員会ニュース 公的保育を守り拡充させよう

2019年  
12月9日  
第163号

発行 = 東京自治労連保育闘争委員会 Tel.03-5940-7951 Fax.03-5940-7957 honbu@tokyo-jichiroren.org

## 2019・保育を楽しむための連続講座 第2回

### 「保育制度の変遷～措置から契約へ」＋「子どもの魔法力」を開催！

11月19日（火）7区1市・33名が参加し、高橋光幸さん（自治労連保育部会長）を講師に、子どもの持つ魔法力についてと、保育制度がどのように変わっていったか歴史を辿って学びました。

「保育制度の変遷」では、保育に欠ける子どもがいたら「市町村長は保育所に入所させなければならない（措置）」とされていた時代から、保護者の申込みとなり、2015年に「子ども・子育て支援新制度」が始まり、保育園に入所するための認定制度（保育認定）が設けられました。このことにより、保護者が施設と直接契約する施設も出現しましたが、運動の成果で、市町村が子どもの入所に責任をもつ「保育実施義務」が残ったことを知り、声を上げることの大切さを感じたのでした。

もう一つのテーマである『子どもの魔法力』とは、「子どもの持つすばらしい力。そして子どもの願いを読み取る保育者の力」のことです。また、「困った子は困っている」という言葉が、心に響いたと多くの参加者が声をそろえます。保育を楽しむためには、魔法力を磨き、運動にも力を注ぎましょうと締めくくられました。



グループ交流では4～5人のグループを作り、講義の感想や職場での悩みなどが話されました。1年目の保育士さんが「大変とつい思ってしまうけれど、その子の持つ『魔法力』を見つけるぞ！と思うとポジティブに子どもと向き合える」と話すと、笑顔で共感する参加者の姿が印象的でした。他にも日誌の書き方や休憩の取り方・有給休暇の取り方など、自治体による違いがあり、違うことがわかるだけでも学びとなり視野が広がりました。

今回の講義も、情勢は学ばなくてはと思うけど、どうしても構えてしまうため保育内容と絡めて聴けると入りやすいと好評でした。参加することで明日からの活力になり、子どもたちに早く会いたくなります。 次回は12月10日（火）みなさんの参加をお待ちしています。



#### 【参加された方の感想】

- ☆「困っている子は困っている」というワードが響きました。子どもたちが発しているSOSに気づき、安心してあそべる場所を作ってあげたいです。（世田谷区1年目）
- ☆今回の講義や交流、楽しかったです。魔法力ってすばらしいなと思いました。また、それぞれの自治体で、いろいろちがってビックリです！（墨田区1年目）
- ☆子どもの可愛らしいところをたくさん見ているはずなのに、忙しいことばかりが残っているなぁと感じた。子どもにやされるような場面を励みに、もっと楽しく過ごせる心のゆとりと技術を身に付けて努力したいと思う。他園のお話も聞くことができ、参考になりました。“こう思ってこう関わってみた”ということが大切だと改めて感じることができました。（世田谷区4年目）